

令和7年度 大津市立仰木の里小学校 いじめ防止基本方針

はじめに

2011年（平成23年）の市内中学生が自ら命を絶たれた痛ましい事案以降、このような悲しみを再び繰り返してはならないという強い決意のもと、仰木の里小学校においては、いじめ防止対策推進法（以下「法」といいます）、大津市子どものいじめの防止に関する条例（以下「条例」といいます）、大津市いじめの防止に関する行動計画に基づき、いじめの「未然防止」「早期発見」「早期対処」を柱に、いじめ問題に対する対策を進めてきました。

条例には、以下のような基本理念が定められています。

「全ての子どもは、かけがえのない存在であり、一人一人の心と体は大切にされなければなりません。子どもの心と体に深刻な被害をもたらすいじめは、子どもの尊厳を脅かし、基本的人権を侵害するものです。しかしながら、いじめはいつでもどこにおいても起こりうると同時に、どの子どももいじめの対象として被害者にも加害者にもなり得ることがあります。このようないじめを防止し、次代を担う子どもが健やかに成長し、安心して学ぶことができる環境を整えることは、全ての市民の役割であり責務です。」

この基本理念に則り、仰木の里小学校では、過去の反省を忘れることなく、子どもの声や主体性を大切にしながら、地域社会全体で、いじめ対策に取り組んでいくことが重要であると考え、本校のいじめ防止基本方針を定めました。

全ての子どもたちが安心・安全に学校生活を過ごす事ができ、一人ひとりの笑顔が輝く学校づくりを進めるためにも、学校組織全体で、以降に示す取組を進めます。

目次

1 いじめ問題に関する基本的な考え方・・・・・・・・・・P. 2～7

（1） いじめの未然防止

（2） いじめの早期発見

（3） いじめへの対処

2 「いじめ対策委員会」の設置・・・・・・・・・・P. 7～9

（1） 役割

（2） 構成員

（3） 関係する校内委員会等との連携

（4） いじめ事案対応フロー図

3 その他いじめの防止等のための対策に関する重要事項・・・・・・・・P. 9～10

（1） 基本方針、年間計画の見直し

（2） 基本方針、年間計画の公開・説明

4 いじめ防止等に向けた年間計画・・・・・・・・・・P. 10

I いじめ防止等のための対策の基本的な考え方

いじめ問題に取り組むにあたっては、「いじめ」にはどのような特質があるかを十分に認識し、日々「未然防止」と「早期発見」に取り組むとともに、いじめが認知された場合の「早期対応」に的確に取り組むことが必要であると考えます。法では、「いじめ」を以下のように定義されています。

「いじめ」とは、児童等に対して、当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人間関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

本校では、このいじめの定義に基づき、「未然防止」「早期発見」「早期対応」に関する以下の内容について、組織的に進めます。

(I) いじめの未然防止

いじめはどの子どもにも、どの学校でも、起こりうるものであることを踏まえ、より根本的にいじめの問題を克服するためには、すべての児童を対象としたいじめの未然防止の観点が重要です。

このため、本校では、すべての児童が、より良い人間関係を構築できるような態度を育むことで、いじめを生まない環境づくりを進めます。また、家庭、地域その他の関係者に対し、学校での取り組み内容を説明し、協力を求めることで、地域社会が一体となった取組を進めます。取組の基本となるのは、児童が、周囲の友人や教職員と信頼できる関係の中、安心・安全に学校生活を送ることができ、規律正しい態度で授業や学校行事に主体的に参加・活躍できるような授業づくりや集団づくり、学校づくりを行っていく事であると考えています。学校のあらゆる教育活動の中で、すべての児童が自己存在感を感じ、自己決定の場を与えられ、共感的関係を育てる機会を設けることを大切にし、互いを認め合える人間関係・学校風土の醸成に努めます。加えて、児童自らがいじめについて学び、取り組む等の自主的・自治的な活動を積極的に支援し、児童一人ひとりが主役となる学校づくりも進めます。

そうした未然防止の取り組みについては、日常的な児童の行動の様子や欠席の状況を把握し、その状況に応じ、随時見直しを図ることで、より充実した取組を進めます。

については、上記のことに関して、本校では、以下のような取組を進めます。

① 子どもの主体的な参画

No.	行動計画の具体的取組	取組目標
34	いじめ防止啓発月間を中心とした子ども主体の取組の推進	いじめ防止啓発月間（6月、10月）を中心に、児童会等子ども主体のいじめ対策に関する取組を実施する。 子どものいじめ問題に関する意識を高め、いじめの未然防止につなげる。 運営委員会によるポスター作成・掲示やあいさつ運動によりいじめ防止意識を高める。 また、運営委員会が中心となり、全校で児童集会を行い、広い視野で人権について考えられる取組を実践する。

35	学校・学級及び個人のいじめ防止に関する取組目標の設定	いじめについての考えを出し合い、いじめ防止に関するクラス標語を作ったりふりかえったりすることで、いじめ防止意識を高める。
----	----------------------------	--

② 子どもに対する教育・啓発

No.	行動計画の具体的取組	取組目標
36	いじめが許されないことを理解し、子どもの解決力を育むための教育の推進	命・人権・いじめに関する映像資料を視聴し、いじめをなくすための方法やいじめを見たときの対処の仕方などを考えさせることで、いじめ問題を解決する力を育む。
37	インターネット上のいじめ防止を含む情報モラル教育の実施	外部講師を招き、ゲーム機や携帯電話・スマートフォン等の使い方のルールや危険性を考えさせ、情報モラル教育の推進を図る。5月の授業参観は、情報モラル教育についての学習を全校で実施する。
38	相談することの大切さに関する啓発	日々の教育活動や相談窓口等の広報啓発物品等の配付の機会を捉え、悩んだときには人に話す・聴いてもらうなど、自分が一番相談しやすい方法で相談することの重要性を伝える。
39	子どもの心を豊かにする道徳教育の推進	6月と11月にいじめ防止・命・人権に関わる道徳の授業を行い、いじめを許さない態度を育てる。 また、人権に関する道徳等の授業を行い、全学級で人権尊重の標語作りに取り組む。
40	自他ともに認め合う人権教育の推進	教育目標「あなたもわたしも大切に～みつけよういいところ☆～」を合言葉に、あいさつが出来たら実にシールを貼ったり、自分やまわりの人たちのいいところを見つけたら葉っぱに書いて掲示する「みのりの木」の取組を行う。毎月1回「人権の日」を設定し、ソーシャルスキルワーク等を通して、コミュニケーション力の向上を図ったり、自分のことやまわりの友だち、クラスや学校のことなどをふりかえったり考えたりする時間を設ける。
41	分かりやすい授業づくり・子どもの存在や意見が尊重される学級づくりの推進	「主体的、対話的で深い学び」を推進する学び合いの授業改善に努める。 聴くこと、分からないことを大切に「協同的学び」を取り入れながら、互いに認め合える学級づくりに努める。
42	思いやりの心を育てる異年齢交流の推進	年間を通して、たてわり活動を行い、低学年の子どもの学校生活の不安感を軽減するとともに、高学年の子どものリーダーシップや自己有用感、全校児童の互いに思いやる心を育てる。

③ 教員に対する研修・支援

No.	行動計画の具体的取組	取組目標
43	学校いじめ防止基本方針の策定、保護者・地域への周知	学校いじめ防止基本方針を学校ホームページで公開する。また、学校運営協議会や学校だより等で周知に努める。
44	保護者・地域に向けた子ども支援コーディネーター等学校への相談の呼びかけ	保護者や地域の方に対し、子ども支援コーディネーター等の学校の相談先を周知し、いじめやその他の子どもの課題を発見した際に、学校に情報提供していただける関係づくりに努める。
45	いじめ対策に関する校内研修の実施	年度当初に、いじめ防止基本方針をもとに全教職員に研修を実施する。外部講師を招き、いじめ対策に関する校内研修を行う。
46	いじめ事案への対応体制の整備及びいじめ事案に対応する教員への組織的な支援の充実	個々の教職員が問題を抱え込まないように、子ども支援コーディネーター等からも声をかけたり、いじめ事案発生時には組織として指導・助言・支援を行ったりする。

④ その他（学校独自の取組）

取組目標
・ 温かい人間関係形成につながる「協同的学び」を取り入れた授業研究に全校で取り組む。
・ 年間を通して生活と学習に関するルールを指導する。

* 学校いじめ防止基本方針は、「大津市いじめの防止に関する行動計画」に位置付ける取り組みのうち、学校が実施する施策の取組目標を記載しています。NO.1～33の取り組みは、市・市教育委員会が実施する施策です。

(2) いじめの早期発見

いじめは、大人の目に付きにくい時間や場所で行われたり、遊びやふざけあいを装って行われたりするものです。しかしながら、いじめやその疑いを見逃してしまうと、より深刻な状況を招いてしまいます。そのようなことから、本校では、たとえささいな兆候であっても、いじめではないかとの疑いを持って、早い段階から学校のいじめ対策委員会が中心となり積極的に対応します。

そのためには、多くの大人が児童の小さな変化に気づく、鋭い観察力を高める必要があります。このため、本校では、日頃から児童の様子をしっかりと見守り、教職員間で定期的に共有します。

わずかな兆候であっても、背景にいじめがあるのではないかとの疑いを持って、いじめ対策委員会で対応について協議します。その上で、いじめを軽視することなく、事実関係に基づいて積極的に認知します。その際、個々の行為がいじめに当たるか否かの判断は、表面的・形式的にすることなく、いじめを受けた児童の立場に立って行います。

また、児童または保護者が、抵抗なくいじめに関して相談できるよう、学校は、定期的なアンケート調査や定期的な教育相談を実施し、いじめの実態把握に取り組みます。それとともに、児童または保護者が日頃からいじめについて相談しやすい雰囲気づくりに努めます。また、学校が

家庭と緊密な連携をすることにより、学校と保護者との間の情報共有をし、児童生徒の状況をきめ細かに把握するよう努めます。

加えて、より多くの大人が児童の悩みや相談を受け止めるため、保健室や相談室の利用、関係機関の開設している相談窓口について広く周知するとともに、地域関係団体や保護者に対しても協力を求めます。

ついで、上記のことに関して、本校では、以下のような取組を進めます。

① いじめに関する情報収集

No.	行動計画の具体的取組	取組目標
47	いじめ等の早期発見のための定期的なアンケート調査の実施	いじめ等の子どもの悩みを早期に発見することを目的に、6月、11月、2月にアンケート調査を行う。 アンケート調査結果は担任だけでなく、複数の教員で確認し、少しでも気になる点があった場合は、子どもへの聴き取りなどを通じて、子どもの悩みの把握と、適切な支援につなげる。
48	いじめ等の悩みの把握及び教育相談の実施	アンケートを元に学期に1回教育相談を行う。 気になる子どもにはこちらから声をかけたり、今後導入予定の「心の健康観察」を活用したりして、悩み等の把握に努める。授業等や休み時間、給食準備や給食中など子どもとの関わりや見守りを通していじめの疑いを含めた情報収集に努める。
49	教職員による校内及び校門等における見守り活動の実施	校長・子ども支援コーディネーター等を中心に、教職員が随時校内を巡回するなど、校内や登下校時の校門等での見守り活動を実施する。 特に、休み時間や掃除の時間等は、子どもの些細なサインを見逃すことのないよう、子どもの見守りを行う。
50	日頃からの家庭との連携及び情報交換の実施	個別懇談等の機会において、学校生活で頑張っている点や良い行いなども含めた子どもの様子を伝えるなど、学校や家庭での子どもの状況や様子を共有し、日頃から保護者とのコミュニケーションを充実させることで、学校と家庭が連携して子どもを支援できる関係性の構築を目指す。 保護者が子どものことで悩んだ際に相談しやすい環境を整備し、子どもの様々な課題の早期の発見に努める。

② いじめに関する情報共有

No.	行動計画の具体的取組	取組目標
51	子ども支援コーディネーターを中心としたいじめの疑いを含めた様々な課題	いじめの疑いの段階で情報を子ども支援コーディネーター等に集約することで、各教員がいじめに関する情報を抱え込んでしまうことを防ぎ、早期の組織的かつ適切な支援につなぐ。

	題に関する情報の集約・情報共有	週1回、定例の「いじめ対策委員会（子ども支援会議）」を開き、情報共有や対応の共通理解を図ることで組織的な対応を行う。
52	いじめの疑いの段階での翌課業日中の教育委員会への速報	学校で把握したいじめの疑い事案（いじめかどうか確認できていない事案を含む）については、学校で「いじめ対策委員会」を開催し、組織的に情報共有・対応方針の検討を行った上で、翌課業日中に教育委員会に事案概要を報告する。いじめ（疑い）事案が発生した際には、翌課業日中に教育委員会へ「いじめ事案報告書」を速報で送る。
53	保幼小中の連携や学年を超えた情報共有の推進	保幼小連絡会、小中連絡会、中学校区の生徒指導関係情報交換などを行い、子どもの情報共有を推進する。

③ その他（学校独自の取組）

取組目標
職員会議で子どもの情報交換を行う。

(3) いじめへの対処

本校では、教職員がいじめと疑われる場面を発見・通報を受けた場合には、一人で抱え込むことなく、速やかにいじめ対策委員会を中心とした組織で対応をします。被害を受けた児童を守り通すとともに、教育的見地から、毅然とした態度で加害児童を指導します。その際、謝罪や責任を形式的に問うことに主眼を置くのではなく、社会性の向上等、児童の人格の形成に主眼を置いた指導を進めます。

例えば、遊びや悪ふざけなど、いじめと疑われる行為を発見した場合、教職員はその場でその行為を止めます。また、児童や保護者から、「いじめではないか」と相談や訴えがあった場合には、真摯に傾聴し、被害を受けている児童や相談のあった児童の安全を確保します。

特に、インターネット上のいじめへの対応については、大津市および大津市教育委員会が作成している「インターネット上のいじめに関する対応マニュアル」に基づいて対応します。

いじめ対策委員会では、いじめの疑いがあった場合、直ちに情報を共有し、速やかに関係児童から事情を聴き取るなどして、いじめの事実の有無の確認を行います。事実確認の結果は、校長が責任を持って大津市教育委員会に報告するとともに、被害・加害児童の保護者に連絡します。

なお、児童の生命・身体又は財産に重大な被害が生じる恐れがあるときや、いじめが犯罪行為として取り扱われるべきと認めるとき、もしくは、指導を行ってもいじめ行為が止まらないときなど、学校がいじめられている児童を徹底して守り通すために必要と判断する場合は、所轄警察署等関係機関や、心理や福祉等の専門家と相談し、連携して対処を進めます。

このため、すべての教員の間で、いじめを把握した場合の対処のあり方について共通理解を図るとともに、迅速かつ的確に対処できるよう、平素から関係機関との連携に努め、情報共有する体制を構築します。

については、上記のことに関して、本校では、以下のような取組を進めます。

① いじめの対処

No.	行動計画の具体的取組	取組目標
54	「いじめ対策委員会」の開催を通じた組織的な対応	いじめの未然防止、早期発見、早期対応のために、いじめ対策委員会（子ども支援会議）を金曜日の放課後に実施する。いじめ（疑い含む）事案発生時には、必要に応じて随時開催し、構成員の協力の下、組織的に対応する。
55	いじめ事案の解決に向けた対応（被害の子どもへの支援・加害の子どもへの指導等）	被害者の気持ちに寄り添い、安心して学校生活が送れるように解決に向けて迅速な対応に取り組む。 加害者にも丁寧に聴き取りを行い、自分の言動をふりかえり、いじめを繰り返さないように指導するとともに、そのようなことに至った背景、理由についても把握に努める。また、被害・加害の保護者に学校の対応への理解を得るよう、努める。
56	インターネット上のいじめへの対応	インターネット上でのいじめを確認した場合、被害・加害の保護者と連携しながら対応を進め、解決を目指す。 必要に応じて関係諸機関と連携する。
57	重大ないじめ事案が発生した際のアンケートや聴き取りによる適切な調査の実施	重大ないじめ事案発生時等に、必要に応じて子どもに迅速に聴き取りやアンケート調査を実施し、いじめ事案の確認を含め、実態の把握に努める。
58	いじめ事案に関する情報の適正な管理・保存	いじめ事案に関する情報が記載された文書については、公文書として適切な管理及び保存（５年保存）を徹底する。
59	いじめ事案が生じたときの保護者との連携	いじめ事案について子どもへの支援・指導を行った場合は、たとえ大人の目からは些細に見える事案であっても、速やかに保護者に連絡し、事実確認できたことや指導方針、今後の支援等について情報共有することで、家庭と学校が連携して子どもへの支援・指導を行う。

2 いじめ対策委員会の設置

本校では、いじめの防止等に関する措置を実効的に行うため、法第 22 条に規定される組織として「いじめ対策委員会」を常設します。その役割等については、以下のとおりとします。

（１）役割

- ア) いじめの防止等の取組の年間計画を作成する
- イ) いじめの防止等の取組について、すべての教職員間で共通理解を図る
- ウ) いじめの防止等の取組の実施、進捗状況の確認を行う
- エ) 児童や保護者、地域に対し、いじめの防止等の取組についての情報発信やいじめに関する意識啓発のための取組を行う
- オ) いじめの疑いや児童の問題行動などに関する情報の収集と記録、共有を行う
- カ) いじめの疑いに関する情報があつた時には緊急会議を開催し、いじめの情報の迅速な共有

を図り、教職員や関係のある児童等への事実関係の聴取、児童に対する支援・指導の体制・対応方針の決定と保護者との連携等の対応を行う

キ) いじめとして対応すべき事案か否かの判断を行う

ク) 重大事態に係る調査の母体となり調査を行う

ケ) P D C A サイクルに基づき、毎年度、いじめの防止等の取組の検証を行うとともに、その結果等を勘案して、必要に応じて学校いじめ防止基本方針の見直しを行う

(2) 構成員

いじめ対策委員会の構成員は、管理職、主幹教諭、教務主任、子ども支援コーディネーター、生徒指導主事（主任）、教育相談担当、養護教諭、スクールカウンセラーとします。

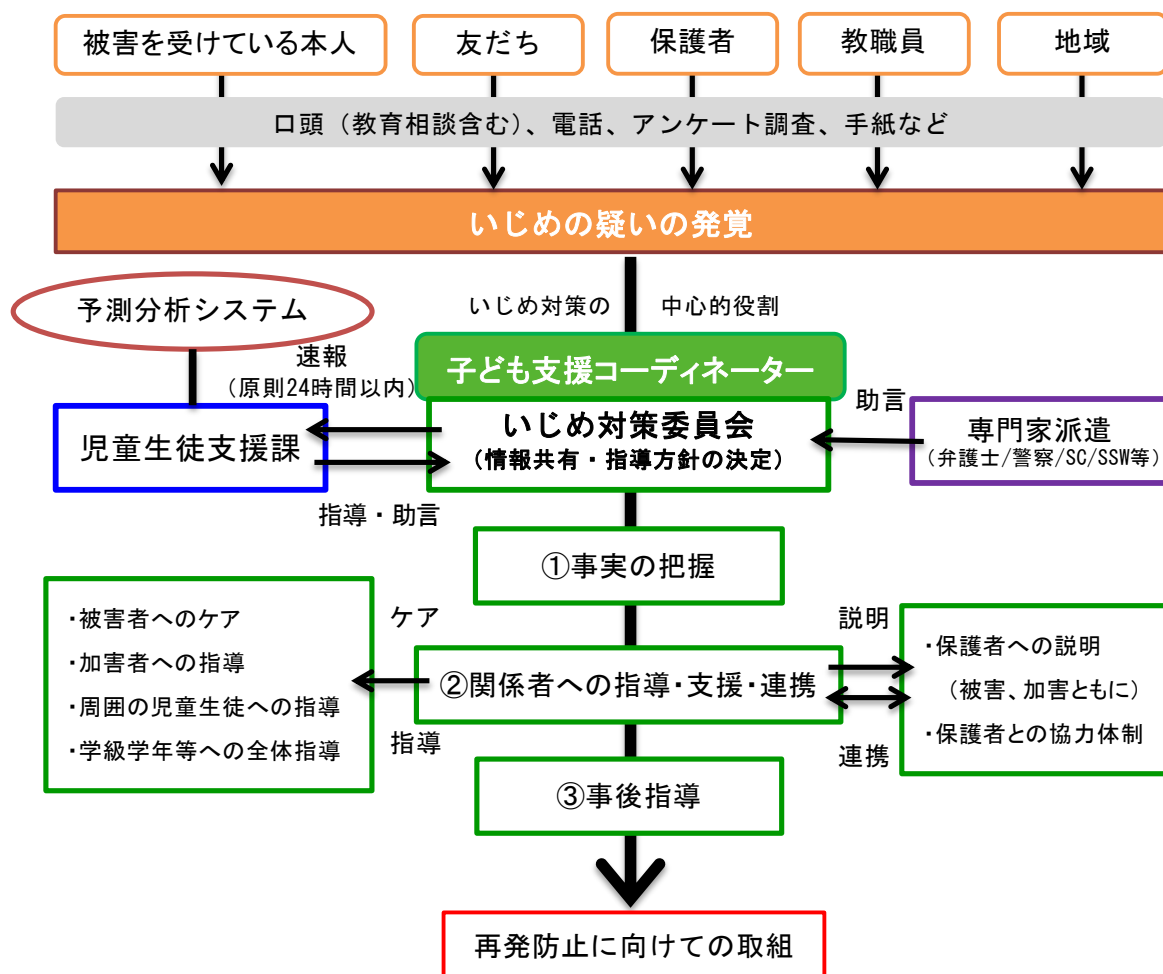
なお、個々の事案に応じて、関係の深い教職員を追加します。

また、事案の性質等、必要に応じて、心理や福祉の専門家、弁護士、医師、警察官（もしくは警察官 O B）・教員経験者など外部専門家の参加を得ます。

(3) 関係する校内委員会等との連携

いじめの防止等の取組の実施に当たっては、生徒指導委員会、教育相談部会、人権教育部会等と役割分担し、連携して取り組みます。

(4) いじめ事案対応フロー図



- (2) 学校のいじめ防止対策全般や基本方針の進捗状況の評価等を協議するため、「拡大いじめ対策委員会」を設置します。

その構成員は校長、教頭、教務主任、子ども支援コーディネーター、生徒指導主事等の学校教職員の他、PTA会長、自治連合会会長、青少年育成学区民会議会長、主任児童委員等の学校関係者とします。

3 その他いじめの防止等のための対策に関する重要事項

(1) 基本方針、年間計画の見直し

具体的な施策ごとに設定した目標について、その進捗状況を定期的に確認し、目標の達成状況（活動実績）を自己評価し、その結果について年度末に大津市教育委員会へ報告しています。また、評価に際しては、目標の達成状況（活動実績）を評価するとともに、それらの取組がいじめ防止にどのような効果があったのかについて考察し、取組内容や方法の見直しを検討します。このような取組を通して、策定した学校基本方針や年間計画をPDCAサイクルに基づき、毎年度見直します。

(2) 基本方針、年間計画の公開・説明

策定した学校基本方針や年間計画は、学校のホームページなどで公開するとともに、年度当初に子どもや保護者、地域関係者にわかりやすく説明します。

4 いじめ防止等に向けた年間計画

月	活動内容・取組	備考
4	学年引き継ぎ（①・②・③） 学校だよりでの子ども支援コーディネーターの紹介（④） 個別懇談会（②・④）	1年生を迎える会
5	PTA総会くいじめ問題に関する学校長の話＞（①・④） 学校運営協議会（④） 情報モラル授業参観（①・④）	たてわり活動
6	いじめ防止啓発月間（①・④） 教育相談 心のアンケート（②・③）	児童会を中心にした取組の実施 たてわり活動
7	学級懇談会（②・④） スマホ・ケータイ安全教室（5・6年）（①）	
8	いじめ問題に関する校内（ブロック合同）研修 （①・②・③・④）	
9	運動会の取り組み ～10月（①・②） 道徳授業参観（①・④）	たてわり活動
10	いじめ防止啓発月間（①・④） 弁護士によるいじめ防止授業（5・6年）（①）	
11	教育相談 心のアンケート（②・③）	児童会を中心にし

	学校運営協議会（④） 児童集会（①）	た取組の実施 たてわり活動
1 2	人権啓発月間 あいさつ運動（①・④） 個別懇談会（②・④）	
1		
2	学校運営協議会（④） 教育相談 心のアンケート（②・③）	たてわり活動
3		6年生を送る会
年 間 を 通 じて	管理職、子ども支援コーディネーター等による全校巡回指導 （①・②・③・④） 地域の方々による登下校の見守り（④） 人権の日【月1回】（①） みのりの木（みつけよう☆いいところ）の取組（①） 生徒指導部会（②） いじめ対策委員会（①・②・③） 職員打ち合わせにおける情報共有①②③）	

※いじめの未然防止に関すること…①

いじめの早期発見に関すること…②

いじめの早期対応に関すること…③

いじめ防止に関する家庭・地域・関係機関等との連携に関すること…④